

## 第1回 小淵沢駅周辺地域活性化計画策定委員会会議録

- 1 会議名 第1回 小淵沢駅周辺地域活性化計画策定委員会
- 2 開催日時 平成24年7月4日(水) 午前10時00分～12時5分
- 3 開催場所 北杜市役所本庁舎北館3階大会議室
- 4 出席者(敬称略)  
出席者  
卯月 盛夫、浅川 健圃、茅野 貫一郎、藤森 和夫、高田 一彦、上村 玲子、  
齊藤 満、坂本 伴和、小林 伸一、茅野 光一郎  
欠席者  
跡部 和典、熊倉 純子  
事務局  
深沢 朝男建設部長、田中 幸男まちづくり推進課長、  
まちづくり整備担当リーダー中澤 貞夫、担当 功刀 政司、高橋 剛  
東京芸術大学  
北川原 温、小川 貴之、山崎 日希、岩崎 剛以下4名  
会議録署名委員  
浅川 健圃、茅野 貫一郎
- 5 議題
  - (1) 開会と委嘱状交付
    - ①開会
    - ②委嘱状交付
    - ③市長あいさつ
  - (2) 策定委員会
    - ①自己紹介
    - ②策定委員会設置要綱について説明
    - ③会長、副会長の選出
    - ④会長あいさつ
  - (3) 協議事項
    - ①北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱の説明
    - ②小淵沢駅舎・駅前広場整備事業の概要及び経過説明
    - ③小淵沢駅周辺地域活性化計画について
    - ④その他
- 6 公開・非公開の別  
公開

7 傍聴人の数

3人

8 審議内容

①策定委員会の設置要綱の説明

事務局より説明を行った。

②役員選出

会長に卯月盛夫委員、副会長に浅川健圃委員を選出した。

③議事

- ・北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱の説明

事務局より説明を行った。

- ・小淵沢駅舎・駅前広場整備事業の概要及び経過の説明

事務局より説明を行った。

(会 長) 今日は、第一回目ということで、今色々なことの説明があった。どんな細かいことでも結構なので、何か疑問や進め方の提案等ご発言いただきたい。

(委 員) 資料の平面計画について、私は4年半小淵沢まちづくり協議会という会の代表で取り組んできたが、その時期に決めた計画の最終案というものか。

(事務局) 前回の基本構想時に検討していただいた図面です。

(委 員) 小淵沢協議会以前の構想計画で、行政側が作られた案ということか。

私が4年半取り組んできた小淵沢協議会の中では、このような最終案にした認識が無いのだが。

(事務局) 前回のまちづくり交付金事業の中で、一度駅舎等の検討をしていただいた。その時には事業費が多くなること、前回まちづくり交付金事業の期間内での実施が不可能であったこと、市の負担分が多く財政上厳しい等の問題でJR東日本と最終的な合意まで至らなかった。このため、現在までこの案を引き継いでいる。

基本構想を策定する時に、今の駅舎の前をロータリーにする案と松本方面に入口を設け車両を進入させ、今の入口をそのまま出口にする案と二つの案で基本構想を検討していただいた。松本方面に入口を設ける案は、非常に段差がある箇所であるため、入口を設けると有効スペースが少なくなってしまう。また、入口が商店街から遠ざかってしまうなど、総合的に基本構想の中で検討していただいた結果、今の駅舎の前をロータリーにする案が基本構想の案に決定した。

(委 員) 基本構想がこの案に決まったのは、いつの時期なのか。

(事務局) 基本構想の策定においては、市民協議会を立ち上げ、この中で検討していただいた。第1回目が平成22年12月15日。6回開催して、最終の第6回が、平成23年6月27日となっている。

J Rとの協議及び、市民協議会の中で意見をいただいて、最終的にこの案に決定した。

(委員) わかりました。

(会長) この基本構想というのは、あまり公開されていなかったのか。知らない方もいるようだが。

(事務局) 基本構想を市民協議会で策定していただき、その後小淵沢町内において全市民を対象に説明会を行った。ただ、その時の出席者がそれほど多くはなかった。会議の内容はホームページでも公開しているが、説明会にはそれほど出席が多くなかったということは少し感じている。

(会長) わかりました。

その他いかがでしょうか。

(委員) せっかく東京芸術大学の先生方との連携で取り組む駅になるということなので、こんな駅になれば良いなという意見です。

東京から中央線の特急で2時間来ると、東京と比べるとこの地域はガラリと変わる。小淵沢で電車を降りると、約三千メートルの山々に急に囲まれるイメージの駅である。東京からであれば、日帰りできる地域であるが、やはり特徴づけた駅になれば良いと思う。今は駅長さんの帽子を猫に被せただけで、多くの人が来るような世の中である。そのような特徴がある駅にして欲しいことが一つ。それから「駅百選」という選定をしている人達がいるようである。この辺りでは上諏訪駅とか、野辺山駅を挙げている人もいる。新しい駅になった時には「駅百選」に選ばれるような駅を目指したい。いずれにしても、駅舎を造るのに東京芸術大学と連携して行うということは、非常に期待をしているところである。思いきった今までに無い形が出来てうれしいと思う。「さすが。」「良い駅になった。」「お金をかければ良いわけじゃない。」「芸大と提携して良かった。」と言われるようになれば良い。我々も努力するけども、そんな進めて方をしていきたいと考えている。

(会長) 強い期待ということで、北川原先生どうぞよろしくお願ひしたい。

2回目の策定委員会には、駅舎と駅前広場のイメージが少し出てくる理解でよろしいか。

(事務局) 概ねのイメージはご提案したいと考えている。

(会長) 2回目の策定員会に期待したい。

その他なんでも結構です。ご意見は何いたたい。

(委員) 最初の第一回ということで、ぜひお願ひしたいことがある。今回市の努力で駅舎を造っていただくことになり、駅前の道路もきれいに整備していただいた。東京芸術大学の若い学生の皆さんにぜひ、希望と期待を持って、お願ひしたいことがある。この計画を見ていただくと、ハードの面でも課題が多い

わけであるが、ご存知のとおり小淵沢駅前商店街含め地域というのは、高齢化が進んでいて、後継者がいない等の問題になっている。過去何年もの間、この問題についても取り組んできた。しかしこれまで活性化に結びつかない部分がたくさんあった。その部分を若い学生さん達に駅周辺に多くの人達が集中するような、活性化するようすばらしいアイデアを提供してほしい。ハードの面以外のソフトの分についてのアイデアもぜひ出していただきたい。以上、期待していますのでよろしくお願いします。

(会 長) 今のことに関して、北川原先生何かございますか。

(北川原) たいへんご期待をいただいて、プレッシャーを感じている。私は10年程前から色々な御縁があって、北杜市に通っている。駅を利用したのは、数えれば100回くらいになるかと思う。まだまだ不勉強でわからない点多々あり、勉強中であるが、今委員さん方がおっしゃったことに関しては、ぜひとも実現したいと肝に銘じている。特にハードも確かに必要であるが、ソフトというのが非常に大事である。東京芸術大学に社会連携センターという部門がある。ここでは、昨今大学が地域と連携して、いかに社会に貢献するかということを考えている。今までは大学、特に芸大というのは社会と切り離されたような存在であったが、いよいよ芸大も国からの指導もあり、私共も何度も協議会を開催し、いかに社会に直接的に貢献していくか研究し取り組んでいる。そういう点からも、ぜひハードだけではなくてソフトの面、いわゆる戦略について、いかにして小淵沢の駅舎を含んだ駅前広場、そして駅前広場を取り巻く一帯の地域が発展していくか、私共大学がどう貢献できるか、まさにその部分が問われることになろうかと思う。精一杯の努力をして何とか実現して、全国の話題になるようにしたいと思っている。よろしくご指導お願いしたい。

(会 長) ありがとうございます。

その他ございますか。

(委 員) 官・学・産の3つの取り組みで具体的に駅舎や駅前広場の計画を行うというのは、北杜市が初めてではないかと思う。官学の連携は過去にもあった。これまで、まちおこし、むらおこしなど色々やってきたが、今回の計画は初めてじゃないかと思う。駅や駅前広場という物が出来る。色々な皆さんがそれをご覧になる。それが全て成果に繋がると思う。

北杜市はインターチェンジが3つもあるめずらしい地域。中央線と小海線があり、駅もたくさんある。小淵沢駅がその重要なポイントであり、その小淵沢駅を整備することは非常にポイントを得ていると思う。

また、北杜市には大きな企業が少ない。北杜市は農業圏である。観光と産業、産業とは農産物であり、この二本立てが北杜市を伸ばすと考えている。その

他にも企業誘致などの方法も考えられるが、将来我々の子供や孫が安心して生活できる。先人達がこういうことをやってくれた。それが一つのモデルのように出てくるのが、小淵沢駅舎と周辺の改善や改革なると思う。

夏に小淵沢駅にお客さんを迎えにいくと、ほんとに混雑している。交通整理も難しい。たしかに繁忙期の時期だけのことを考えて、整備を考える必要があるのかと意見があるかもしれないけど、駅前の混雑の解消を考える必要はあると私は思う。

(会 長) ありがとうございます。

地域の活性化というご期待が極めて大きいということが理解できた。

次の議題に移りたい。

・小淵沢駅周辺地域活性化計画について

事務局及び北川原研究室より説明を行った。

(会 長) ありがとうございます。色々な調査、ご提案が含まれていたと思う。何でも結構です。ぜひ発言をいただきたいと思う。

(委 員) 小淵沢町には、私の大学時代の友人が多く芸術家になって東京から移り住んできています。そういう人達が小淵沢で制作活動は行っているが、その作品を持って銀座などにいってしまう。そんな作品をいつでも見られるような小淵沢が良いのではないかと良く耳にする。芸術活動を行う方の発表の場を設けたら良いのではないかと先ほどの発表を聞いて感じた。

(会 長) 現在ある美術館やギャラリーの数では足りないということか。

(委 員) もっと個人的に活動している方がたくさんいる。個人的に出品できる美術館というものは無いのではないかと。前回も私は駅の中に作品の発表する場があれば良いと思い発表させてもらった。ぜひ設けていただきたいと思う。

(会 長) ありがとうございます。

他にどうぞ。ぜひ発表していただきたい。

(委 員) 私は今回初めて出席したので、基本的な質問をしたい。駅舎の改築について、意匠設計を北川原先生がおやりになって、構造設計や設備設計については、JR東日本が行うということであるが、この場で北川原先生より、駅舎の形や使用する材料などその他のことを提示されて、この場で議論を行い、固まったものについて、JR東日本が構造設計や設備設計を行うということであるか。

(会 長) 事務局お願いします。

(事務局) 北川原先生には、駅舎がJR東日本の施設と市の施設が合築されるので、その意匠設計をお願いする。ご質問にあるこの会議で駅舎の形や使用する材料を協議していただくといったことは考えていない。こちらの会議については、駅前の活性化計画について、検討していただきたいと考えている。多少駅の

位置関係や駅の意匠というところもいずれ関わってくるので、提供はしますが、原則的には駅周辺の活性化について意見をいただく場と認識していただきたい。基本的には駅舎となるので、JR東日本の建物になる。一応は民間の建物なので、市の方から要望を申しづらい点もある。駅舎は基本的にはJR東日本の建物ということが大前提である。ただ、市の施設も一部あるので、JR東日本と北杜市と北川原事務所と一緒に検討してその方法を決めていくということでご理解いただきたい。

(委員) 駅舎の本体の設計は、JR東日本が行うという認識でよろしいか。

(事務局) 駅舎の本体の設計は原則的にはJR東日本で行う。市の施設も一部あるので、全体の意匠をJR東日本が北川原先生にパートナー契約でお願いしている。

(委員) わかりました。ありがとうございました。

(会長) 非常に微妙なことであるが、資料のとおり「プラン・デザインの調整」と表現がある。私も駅舎は重要だと思っている。ただ、この委員会で駅舎のことを決定出来るわけではないです。今回は駅舎と駅前広場の整備に北川原先生が携わるというとても良い状況でもあるので、出来る限りの情報をこちらの委員会にも出していただきたい。特に観光交流センターは市が作るものなので、そちらに反映できるもの、あるいは外観等に反映できるものは多々あるのではないかと思う。ですから情報はなるべく出していただいて、意見を出していただいて、出来ることと出来ないことが意見として出てくると思うが、議論はしたいと思う。事務局はぜひよろしく願いいたします。

さて他にどうぞ。

(副会長) 今お話を伺って、私は小淵沢駅の近くに住んでいるが、出店があれば良いかな。外観が良ければ良いかなというぐらいに考えていたが、駅の必要性という部分で、頭を殴られたかのような衝撃を受けた。駅とは何か、地域とは何か、人とは何かということを総体的に考えなくてはならないと思ったが、まだまとまっていない。第一回で頭を殴られたので、第2回ではこれを頭の中で整理してみようかと思う。今日は本当にうれしかった。ありがとうございました。

(会長) ありがとうございました。

ぜひ他にもご意見をいただきたい。

(委員) 今日私は初めてこの会に出させていただいたが、この北杜市全体がすごく景観が良いところで、これはお金では買えないところである。実は、私共の区は区有林をかなり持っていて、管理を行っている。何年か前に森づくり委員会という組織を作った。全国的にアカマツが松くい虫の被害にあい、関西では全滅に近い状態になってしまい、区の方でも昨年はやはり松くい虫の被害にあい、かなり皆伐を行った。そのような木材を駅にも利用できる場合、椅

子などの材料にアカマツやカラマツは地元にありますので、ぜひ利用していただいて、温かい感じの駅舎にしていきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

- (委員) 私も今回初めて参加したが、まちづくりというのは、観光面と地域も含まれると思う。ということは、以前も話をさせていただいたが、北口の方にも将来的に渡れるような構想を考えてもらって、今回そこまではいっていないが、将来的には通路が出せるというような構想を加味してもらえれば、将来的にだいたい楽かなと思うし、北口の発展にもつながると考えている。将来的なことを見据えた考えで進めていただければありがたい。
- (委員) 私も駅前商店街に過去20年近く関わってきたが、やはりこういう会議になるとどうしても、看板から、建物からという話になってしまうものである。お客さんをどう集客するか、いかに若い人達が集まってくれるのかということが私の中では大前提になっている。今回すごく良い機会なので、ソフトの部分で、いかに集客するかいかに若い人に集まってもらえるかを念頭に考えてほしいと思う。ただ今駅前のご承知のとおり、見ると5時か6時になると真っ暗である。確かに後継者もないし、店も閉まってシャッター通りになりかねない状態にあるので、そういうことも含めた中で、トータル的に考えていただけたらと思う。ぜひよろしくお願ひしたい。
- (委員) せっかく素晴らしい様々な計画が出ているが、ぜひお客さんが東京から小淵沢駅に来た時に、「良いところに来た。」「ほっとする。」自分の田舎に来たというようなそんな駅舎にしていきたい。街でよく見かけるコンクリートの塊のようなものでないことを願っている。よろしくお願ひしたい。
- (委員) 事務局にお願いがあります。駅舎は笛吹市でも造られる。金額は笛吹市の方が大きい。しかし、大学などと連携はしないでそのまま建てるだけ。言わば競争になるかもしれないが、北杜市は東京芸術大学と連携するというので、大変ヒットな駅に皆さん思っていると思う。
- お願ひというのは、今日はここに事業費の数字が出てきている。これを住民がまともに見ると、現在北杜市は財政が厳しく、節約をしていかなければならないような時期に、なんでこんな隅っこの小淵沢にお金をかけるのかと思う人も多いのかと思う。実は市の自己負担というのはいくらである。という発表をしないと少し住民感情が出るのではないかと検討いただきたいと思う。そういう配慮も必要だと思う。
- (委員) 2つ程。資料を見ていると、懐かしいなと思いながら拝見した。これは先ほど、ご説明いただいた基本構想という作業の前の段階の平成18年度まちづくり交付金のワークショップなどは、まちづくり小淵沢と市と一緒に駅前で幾度となく開催しまして、多くの住民や観光客、来向者、駅の利用者の多く

の声を吸い上げ、このような形に整理させていただいたものである。僕らも13年、14年TMOという時代からまちづくり小淵沢ということで取り組んできた。7年ほど前に（有）まちづくり小淵沢という組織を立ち上げた。この長い作業の中で基本中の基本としては、地域づくり、まちづくりというのは、人づくりであるという基本的な理念がある。その中で一つこういったアンケートも取りましたけど、多くの人の意見を聞いてきた中で自分として、ドイツのニーチェという哲学者の「風景が心にあたえるもの」という文面をちょっと短くお知らせしたい。

「いつもの自分の生活や仕事の中で、ふと振りかえったり、遠くを眺めたときに、山々や森林の連なりやはるかなる水平線や地平線といった、確固たる安定した線を持っていることはとてもたいせつなことだ。

それらは単なる見慣れた風景にすぎないかもしれない。

けれども、その風景の中にあるしっかりと安定した線が、人間の内面に落ち着きや充足、安堵や深い信頼というものを与えてくれるからだ。

誰でもそのことを本能的に知っているから、窓からの風景を重視したり、セカンドハウスの場所を自然に近いところに選んでいるのだ。」

これが集約されているすばらしい言葉だと感じながら、まちづくりをしているつもりである。こんなことも参考になるのではないかと思います。紹介させていただいた。駅舎についても風景は自然風景だけでなく人工物もその中にいかに溶け込んで人の心に良質なものを与えるか。こういった要素が多くあると思うので、ぜひ作業される方は理解していただけて努力していただきたいと思う。

（会 長）ありがとうございます。

続いてお願いします。

（委 員）先ほどプレゼンにもありました資料、ワークショップを行った景観に対する意見の中で「観光客のためでなく、生活の場としての駅前であって欲しい。」と多目的コミュニケーションが出来る駅とあるが、「人が中心の広場や観光拠点」ともある。意見の集約の中でこの辺をどう考えられたのか。地域住民の生の声だと思います。

（会 長）次回でもよろしいか。

（委 員）はい、結構です。

（会 長）結構大きなテーマだと思うし、次回のご提案が出てくると思う。その時まで取っておきたい。

ちょっと僕の方から一つあります。2回目の委員会が8月か9月になると思う。その前にワークショップが始まってしまいが、少しだけで良いので、今考えているワークショップの内容とか範囲とか時期とか情報を教えていただ



きたい。委員の皆さんにも協力いただかないといけないのかなと思って質問させていただく。

(事務局) 研究室と相談して考えているのが、あくまでワークショップの目的としては市民の方から意見を色々と引き出すということが、一つの目的だと思っているので、複数案の駅前広場整備イメージを提示させていただいて、それに対して意見をいただこうかなという形を考えている。開催の方法は今検討しているが、広報やホームページを通じて広く周知して、オープンスペースなどで広く意見をもらっていく形。もしくはパブリックな場所に展示し、アンケートをとる形で自由に意見をいただく形であるとか現在考えている。回数は未定です。8月、9月にかけて1回では済まないかなと感じてはいる。バスを利用する方などの交通利用者の意見を聞く場なども必要かなとも思うし、イメージが固まっていないところもあるが、複数回は必要になってくるのではないかと事務局では考えている。

(会長) わかりました。いずれにしても実施要領がある程度決まった段階で、委員の皆さんに必ず情報を周知し、お時間があれば参加していただかないと、2回目の委員会になかなか反映しづらいのかなと思うので、ぜひお願いしたいと思う。

④その他

事務局より説明を行った。

次回の開催予定時期と振込先口座届の説明を行った。

⑤閉会

会議終了 12時5分